



大阪府保育士会だより

ほほえみ

令和7年
3月31日

141号

発行 大阪府社会福祉協議会 保育部会・保育士会 大阪市中央区中寺1-1-54 ☎ 06-6762-9001



約900名が大会に参加。オープニングのよさこい鳴子踊り、とらっくよさこいの演舞に会場は大盛り上がり！



第57回全国保育士会研究大会 高知大会
全国保育士会倫理綱領
私たちは、子どもの育ちを支えます。
私たちは、保護者の子育てを支えます。
私たちは、子どもと子育てに
やさしい社会をつくります。

さこい祭りで大賞を受賞した「とらっくよさこい(ちふれ)」の演舞が披露され、会場は大いに盛り上がりました。その後、高知県保育士会高知県実行委員会副委員長の山崎雄一郎氏の開会宣言をもって大会がはじまりました。

大会では、物故者慰霊、倫理綱領、食育推進ビジョンの唱和、そして「私たちがいるんです」を斉唱の後、主催者挨拶や来賓祝辞、来賓紹介、臨席者紹介が行われました。さらに、永年勤続者を代表して、社会福祉法人幸の会東泉泰寺保育園の中西晴子氏に全国保育士会会長の村松会長から感謝状が贈呈されました。大会のアピール案が読み上げられ、その場で採択され、大会のアピールとして示されました。

基調講演では、全国保育士会会長の村松会長が「子どもの現在と未来を支える保育の実現」について語り、行政説明ではこども家庭庁成育局保育政策課の栗原正明氏が「子ども子育てをめぐる国の動

第57回全国保育士会研究大会は、高知県立文化ホールなどで、11月21日(木)・22日(金)に開催されました。全国保育士会が単独で大会を開催するのは最後となり、約900名の参加者が集い盛大に行われました。

オープニングでは、子どもたちによるよさこい鳴子踊りに続き、2023年よ

向」について話しました。

記念講演(トークショー)では、高知県出身の絵本作家・柴田ケイコ氏が「幼少期の好奇心と遊びと絵本」というテーマに高知放送アナウンサーの井上琢巳氏の司会のもと、初本「めがね」についてのエピソードなどを紹介しました。講演の最後には、柴田氏ご自身による絵本朗読があり、普段は読み手となる保育士たちも心から癒されるひとときとなりました。

2日目は、全国各地から集まった参加者が9か所の会場に分かれて、日々の保育に直結する研究テーマについて深く学び合いました。各分科会の内容や詳細は、保育士だより2025年1月発刊No.324号および2024年研究紀要をご覧ください。



村松会長による基調講演

また、特別分科会では自由発表として5件の研究が行われ、どの会場も活発な質疑応答と助言による意見もあり、明日からの保育に役立つ知見が共有されました。

次回大会からは、全国保育士会と全国保育協議会が一本化され、初の開催地は東京国際フォーラム他にて、11月20日(木)・21日(金)に開催される予定です。今後、各発表を通じ、多くの学びを得る機会が提供されることを期待しています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



保育士研修会

「災害時の乳幼児支援」

講師 (社)福祉防災コミュニティ協会 湯井 恵美子氏

日付 11月27日(水)

場所 TKPガーデンシティ プレミアム心斎橋

研修レポート
河内ブロック

テーマ

みんなで助かる！
福祉×防災×コミュニティ
福祉防災図上訓練

■はじめに

想定していないことや訓練していないことが起きたとき、私たちは、どう行動すれば良いのでしょうか？また、緊急事態が起きたときに子どもたちをどう対処するのでしょうか？

保育施設や関連組織では、連合隊として防災を検討し、実際に練習することが必要です。さらに、ただ訓練するだけでなく、ゲーム性を取り入れて「楽しく訓練する」ことも大切なことです。

■能登半島地震にみる災害関連死

まだ、皆さんの記憶にも新しい能登半島地震では、

362名の死者が出ました。

直接の死因だけでなく、地震発生後すぐにライフラインが止まり、水道が使えない状況が災害関連死を引き起こしました。危険な環境下での運動不足により体力が低下し、食事や排泄の回数も減少、その結果、内臓系のトラブルが起きるといふ悪循環に陥るのです。

避難生活や防災教育の中で、子どもたちの日常生活を維持・継続するために作られるカリキュラムが、保育現場の「BCP(事業継続計画)」です。体力の低下を防ぎ、通常の保育をできるだけ継続することが重要なのです。



■災害時の保育

災害時にBCPを発動して保育を提供する際は、段階的に実施することが大切です。オンラインを活用し、ネット配信で歌や絵本の読み聞かせを行うことで、一人ひとりの安否確認を実施し、子どもたちの心の安定を図ります。子どもたちが最も信頼する担任の先生の声と顔で「大丈夫？」「辛かったね」と伝えることは、園児支援に直結します。

被災地では、園や学校が定期的に対面で安否確認を行っています。被災地支援には、先生が避難先を訪問し安否確認をするのも業

務として含まれるので、保育士の皆さんもその自覚をもっていただければと思います。

■避難所での断水とその対応

断水時に最も困るのはトイレの問題です。掃除ができず汚物が放置され不衛生な状態になります。この状態を防ぐため、自分自身でだけの水や食料、トイレ用品を備蓄するか考える必要があります。「自分の分は自分で用意する」が基本であり、最低でも一か月分の備蓄が求められます。

■福祉避難所の重要性和「みんなで助かる」体制

東日本大震災では、障がい者や高齢者、大人だけでなく、小中学校、幼保の子どもたち合わせて約700人が亡くなりました。多くの支援者(消防署員、自治体職員、民生委員、福祉施設職員、幼保職員など)も犠牲となりました。各園の防災計画は、「子どもを先生が守る」ことを前提としています。実は先生自身も守られるべき存在です。先生や支援者

がいなければ、町全体の復興は望めません。めざすのは「みんなで助かる」体制です。園を支援する支援者が存在し、誰かが助けられない子どもも、必ず他の誰かが助ける関係を築くことが重要です。

社会で最も大切なのは『自分の命』、次に『大切な人(家族や身内)の命』、そして『支援する人の命』です。どんな場合でも、一人でも逃げられる体制、誰が抜けても機能する体制を準備することが、BCPの基準として求められています。

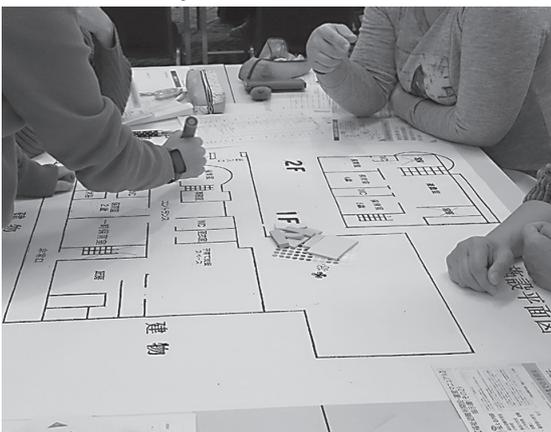
■園で行う避難訓練

園庭に逃げるだけの訓練では不十分です。スマホから発せられる緊急地震速報の警報音や地震の音、「ガガガガ」「ゴゴゴゴ」に慣れるための訓練も重要です。これらの音が鳴ったらすぐに逃げるという一連の動作

を繰り返し練習して、園や家庭のどちらにいても適切に対応ができるようにします。

■最後に

最後のグループワークでは、福祉避難所の開設を想定し、支援が必要な子どもに対する具体的な対応策を出し合い、新たな課題や支援物資を確認しました。福祉避難所を円滑に運営するためには、BCPを整備し、対応が困難な課題が発生した場合の連携先も明記しておく必要があります。大切なのは、支援が必要な人も、支援する人も共に助かることです。



グループワークで行われた図上訓練の様子

「乳児保育」

講師 大阪総合保育大学 大学院学長 大方美香氏

日付 1月24日(金) 場所 たかつガーデン

テーマ

—保育の社会化に向けて—

0・1・2歳の育ちや発達を考える

研修レポート
南大阪ブロック

保育士会の倫理綱領に掲げられた「私たちは、子どもと子育てにやさしい社会をつくります」という言葉の意味を問うところから、今回の研修ははじまりました。

■少子化とは

ここで言う少子化とは、18歳以下の子どもが減ってきていることをさします。保育は、単に子どもを育てるだけではなく、子どもたちが未来に向かってどう成長していくかを見極めながら支援することです。家庭環境も変わり、安全ではあるものの、子どもが成長しづらい状況になっています。

識がない限り、新しい発見はありません。

■0・1・2歳は何が育つ時期か

赤ちゃんはいつから座れるようになるのでしょうか？それは、ただ時期が来たからではなく、座る前の環境や体験が非常に大切なのです。

■「個別指導計画」の大切さ

「個別指導計画」を考えるために、研修では、これまでの講義内容をもとに、自分たちが覚えていることや印象に残ったことをグループで話し合いました。人それぞれ意見や感じ方が異なるため、それによって子どもへの接し方にも違いがあります。そのため、それぞれの保育者が気付くポイントを共有し、相談や話し合いをすることが必要になります。「個別指導計画」があることで、その時々子どもに合ったおもちゃや環境を整えることができるのです。気付こうとする意

な使命です。

■感覚の育ち

子どもの発達は、五感(視覚、触覚、聴覚、嗅覚、味覚)の心地よさによって大きく左右されます。心地よいと感じる環境では、もつと見たく、触ってみたく、聴いてみたくなるなど、自然と興味や意欲が湧いてきます。

赤ちゃんは、生まれた直後から脳内に感覚的なネットワークを築き、さまざまな情報を関連付けながら成長していきます。しかし、心地よくない環境や不快な刺激が多いと、身構えてしま

い、嫌がるが多くなります。特に、心地よさを感じていない子どもほど、私たちが早い段階で「良い心地よさ」を伝え、徐々に感覚を取り戻すサポートが必要です。

乳幼児期の子どもにとつて、保育者のやさしく心地よい声かけや触れ合いが、最も安心できる関わり方であり、子どもの手の届くところに興味を持たせる環境を整えることが、保育者の大切な役割であると学びました。

また、家庭で子どもを育てることが難しい現代において、私たち専門職が胸を張ってアドバイスし、家庭ではできない支援をしていると意識をもち自信をもつことが重要だと話されました。

また研修では、0歳児向けの感触遊びについて、グループに分かれ付箋に意見を書き出し、グループニングや意見交換を行いました。自然と緊張がほぐれ、笑顔が生まれる場面があり、参加者が交流できる素敵な時間も過ごせました。

今回の研修の本当の狙いは、「保育士の仕事とは何か」を再確認することにあったように感じます。今日の経験や園にもち帰り、日々の保育に積極的に活用していかなければならないと思いました。

大方先生は、サザエさん一家の例えを用いて、理想的な社会の姿をお話しされました。具体的には、おじいちゃんやおばあちゃんが家族と一緒に暮らし、孫の面倒を見てくれる環境、兄弟のような存在のカツオ君やワカメちゃんや、その友だ

ちがいて、近所の人や地域のご用聞きの人たちが磯野家にどんな子どもがいるかをよく把握している社会です。そのような環境なら、タラちゃんのような小さな子どもでも、安心して三輪車に乗って近所を遊び回ることができるよう。

しかし、現代は不審者の存在や隣人は何をしている人か、名前さえも知らない時代となっています。こうした社会状況が、子育てをますます困難にしていると先生はお話しになりました。サザエさん一家の例えは非常に分かりやすく、私自身も「なるほど」と感じました。

もし、誰もがやさしい社会であれば、安心して子どもをたくさん産み、子育ても容易になるでしょう。そして、少子化対策にもつながるのではないかと思います。少しでも子育てがしやすい、やさしい社会を実現するためのサポートをすることこそが、私たちの大切な役割であると改めて実感いたしました。

保育士研修会

「マナー研修」

講師 有限会社レイズ
取締役・人材育成コンサルタント

増田 知乃氏

日付 2月17日(月) 場所 たかつガーデン

研修レポート
塚ブロック

テーマ

自分が保育で一番大切にしていることってなんだろう
素敵な笑顔と相互理解が高める幸福度

自分を知らず相手を知る

人間関係を考えるのにまず自分を理解することが大切。

自己認知のためにT A (Transactional Analysis 交 流分析) で各自で心理分析をし、グラフにして自分のタイプを知ることから、講義がはじまりました。

T Aで取り組む3つのテーマ

①ストローク：相手の存在を認める言動を指す。挨拶の言葉がけやにっこりと相手を見て微笑む肯定的なストロークと怒ったり叱ったりといった否定的なストロークもある。

②自我状態の理解

人間は3つの自我状態があり、親のように規律を守ったり優しく接したりする parent (P) と現状を正確に判断する大人の心 adult (A)、無邪気に振る舞ったり、守ってくれる人に頼ったりする子どもの心 child (C) に分かれる。グラフ(エゴグラム)にして、自分の特性と改善の方法を理解する。

③交流分析

(相手とのコミュニケーション)：私たちは自分も相手も3つの自我状態を保つ。3つの自我状態を駆使して様々な情報を伝えたり、

理解したりする。伝え方や受け止め方といった交流の分析を行うことで、その場にふさわしいやり取りに近づけ、相手が納得できる対応に繋げる。

エゴグラムで導く5つのパターン

3つの自我状態をさらに分類し5つの自我状態とし、心のバランスをグラフ化する。

CP (支配性)

厳しい心。自分の価値観が正しいと譲らない。責任感が強く、他人に批判的。

NP (寛容性)

優しい心。愛情深く、他人を思いやり、世話好きで、保護的で親切。

A (論理性)

論理的な心。現実を重視し、知的で、計算力が高く、聡明で合理的。

FC (奔放性)

自由奔放な心。明るく好奇心旺盛でユーモアがあり、自己中心的。

AC (順応性)

協調的な心。他人からの評価を気にし、言いたい事を言わずに我慢し、従順で遠慮がち。

相手の心の状態に気付くことで、交流を変えることが出来る。

★平行交流 お互いの関係が期待されたものになっているので、コミュニケーションがスムーズに続く。

★交差交流

コミュニケーションが途切れ、人間関係の問題が生じる。円滑なコミュニケーション力を高めるため、ジョハリの窓を活用し自己分析と他人との認識のずれを理解し、総合理解を深める。

Im OK You are OK (スムーズな人間関係の基本)

自分を理解する↓自分の強みを生かし、自分との課題と真摯に向き合い、克服しようとする努力

大切な存在として育む

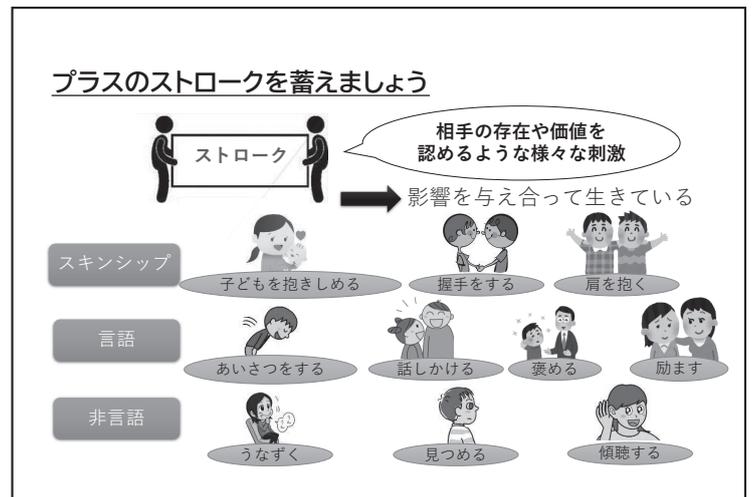
↓同じように他者と向き合う
自己受容・自己理解・自己肯定感を高め、自分自身を尊重することが、他者を理解し尊重することに繋がる。ストレスなく過ごせる。

レゴブ

ロックを使ったワークでは高いタワーを作り、自分の成果を自慢することで、自分の長所に気づき、自己肯定感を高め、ポジティブに子どもたちと向き合う大切さを学びました。

スマイルセラピーと幸せの法則

笑顔がもたらす具体的な影響
①幸福感の向上
②ストレス軽減
③免疫力向上



笑顔は脳に良い影響を与えるため、先生自身が常に最高の笑顔で、子ども、保護者、そして職場の仲間プラスのストロークを送ることがより良い人間関係を作るのに効果的です。また、子どもがマイナスのストロークを出すときは「かまってほしい」というサインです。お互いに認め合い信頼を築くことが大切です。

ジョハリの窓

	自分が知っている	自分が知らない
他人が知っている	開放の窓 OPEN	盲点の窓 BLIND
他人が知らない	秘密の窓 HIDDEN	未知の窓 UNKNOWN

子育て支援と 保育者の資質向上

寺見 陽子

大阪公立大学 大学院
現代システム科学研究科
客員研究員

1. 保育政策の新たな 方向性

年度末になり、各省庁では、来年度の予算編成に向けて、審議会が開催されています。こども家庭庁では、全国どこでも質も高い保育が受けられ、地域でひとりひとりの子どもの育ちと子育てが応援・支援されるような社会を実現するため、今後の保育政策の在り方について「保育政策の新たな方向性」（令和6年12月20日公表）を取りまとめています。ここでは、「1. 地域のニーズに対応した質の高い保育の確保・充実」「2. 全てのこどもの育ちと子育て家庭を支援する取組の推進」「3. 保育人材の確保・テクノロジーの活用等によ



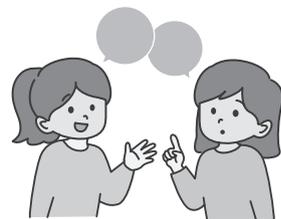
る業務改善」の3つの柱が示されています。就労要件を問わず、すべての子どもを育ちと子育て家庭を支援する誰でも通園制度、障がい児・医療ケア児等多様なニーズを持つ子どもに対応する保育の提供体制の確保、園を利用する子どもやその保護者、地域の子どもや子育て家庭を支援する取組の充実、地域全体で子ども・子育て家庭を応援・支援していく環境の整備等、これからの時代を捉えた応援・支援の充実を図ることが課題といえるでしょう。

2. 保育と子育て支援の マネージメント

保育においてさまざまな子どもを受け入れ、子どもの発達援助と保護者の支援をしていくには、日常の保育をマネージメントし、その成果をていねいにとらえてくことが求められます。子育て支援業務も、日ごろの保育の全体的な運営の中で考えなければなりません。また、園の設置基準や各市町村が設定している認可基準との関連もあり、取り組みたくてもできない状況も起こり得るでしょう。保育者不足も深刻ですから、保育の全体計画の中で、適切にマネージメントして、保育者の過重負担にならないように、かつ効果的に実践できるように体制づくりを考え取り組んでいく必要があります。

3. 施設長の リーダーシップ

子どもや保護者が抱えている課題を敏感に保育者が察知し、保育者間で情報共有するとともに、園内で



の方針を統一して、状況を丁寧把握しながら、保護者支援のプロセスを可視化し、持続的な支え合いができるように施設長の采配が望まれます。休憩時間や保育から離れてノンコンタクトタイムをとるなど、精神的健康へのサポートができる環境づくりも大切です。

また、外部資源を活用したり、状況に応じて自治体や関係機関、地域の子育て支援資源と連携・協力したりできるように、外部の各資源の機能や役割を把握し、それぞれの子どもや保護者・家庭に寄り添いながら、課題を早期に把握し、必要な支援が継続的にできるようにしておくことも重要でしょう。市町村の担当課や学校、児童館、児童発達支援センター、民生委員、児童委員、地域の子育て支援拠点、関連NPO法人、ファミ

リーサポートセンターなどとの円滑な連携・協力ができるように、日ごろから関係づくりをしておくとういでしょう。

4. 子育て支援に関する 保育士等の資質の向上

保育所等における子育て支援・保護者支援は、様々な場面で行われ、その内容も多岐にわたります。そのため、保育士等が共感しづらかったり、把握しにくかったり、保護者との捉え方が異なったりして、保育士等自身も葛藤を抱えてしまいうケースも少なくありません。支援にあたっては、それぞれの保護者の意向や状況に応じて、適切にアプローチしていく必要があります。そこに、保育士等の専門性や資質が問われます。

保育も子育て支援も、子どもと保護者の内面理解とその背景の理解が基本になります。それが保育者が敏感に「こと」を察知する、あるいは自分自身が省察したり内省したりする心的作業を要します。それは葛藤やストレスをもたらすのです。それだけでなく、子

どもや保護者、そして自分自身の内的状態を理解するには、「行為は心の表現」（津守真）といわれるように、想像力を働かせて内面を読みとる解釈力を養うことと、保育者自身が安定的なアタチメントを形成すること、何でも言える人間関係があること、安全な逃げ場が保障されていること（追い詰めないこと）、今感じている感情（心的状態）を言語化する機会をもつことなど、日ごろの職務の中で意識して保育者をエンカレッジすることも、方法の一つかもしれません。

幼児期の子どもとの発達にとつて、安心・安全、信頼、愛着、自己実現と自己と他者の心の理解等が重要ですが、それは保育者の保護者支援における相談助言や対人援助などのスキルと専門的技量を身につけ、保護者のモデルとして保育者が輝けるように寄り添いたいものです。

参考：厚生労働省 保育所等における在園児の保護者への子育て支援「相談等を通じた個別的な対応を中心に」 令和5年3月

保育の王手箱

担当 北大阪ブロック

子どもからおとなまで楽しめる

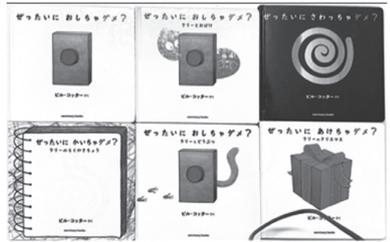
読んだ後にほっこり

楽しい絵本をあつめました。

読み手と子どものコミュニケーションを楽しんでほしい

ぜったいにおしちやダメ？ ぜったいにあけちやダメ？
ぜったいにかいちやダメ？ ぜったいにさわちやダメ？

サンクチュアリ出版
ビル・コッター／さく



ダメ…っていわれると…子どもの好奇心を誘惑してくる。誘惑に負けてしまうと…？コミュニケーションを楽しんでほしい絵本シリーズです。

もこもこもこ

文研出版
たにかわしゅんたろう／さく
もとながさだまさ／え

色の変化や音…想像力も広がり…。

読み手も子どもも受けとめ方も違う不思議な絵本です。



きみのことが だいすき

パイインターナショナル／出版
いぬい さえこ／さく・え



やさしさが溢れて…
そっと寄り添い…
大人のころにも深く響く
絵本です。

うちのピーマン

アリス館
川之上 英子・健／文
柴田 ケイコ／絵

ピーマンとお母さん…
漫才したり、なぞかけしたり、
子どもたちから笑いがおき
ておもしろい絵本です。



編集後記

桃の花がきれいに咲くころ、
新年度を迎える準備、卒園児
を送る準備に進級への準備と、
皆様とても忙しく過ごされて
いることと思います。慌ただ
しい季節ではありますが、赤
ちゃんだった子どもが園を巣
立つていく姿は、何度経験し
ても感慨深いものがあります。
そんな子どもたちの成長は私
たちのモチベーションの一つ
ではないでしょうか。また新
たな出会いを楽しみに、新た
なスタートを迎えたいと思
います。

今年も一年皆様のご協力に
より、保育士の事業を無事
に終えることができましたこ
とを、心より感謝申し上げま
す。次年度は委員改選の年と
なりますが、歴代の委員の先
生方が繋いでこられた思いを
大切に活動していきたいと思
います。

(N・R)

